

3月22日に卒園式を挙行了しました。今月は卒園式特集号です。



卒園式

園長 藤本光世

今年の卒園式では、6名の児童が高校卒業して巣立っていきました。実は児童養護施設で6名の児童が高校を卒業して自立していくとはすごいことです。少なくとも平成20年に私が愛育園の仕事に携わってから初めてのことで、今年度は1年を通して、高校を中退したり、不登校であったり、あるいは登校しぶりをする子は一人もいませんでした。私は、それぞれの子どもたちが今やるべきことを理解して愛育園の生活に取り組んでいる当園の養育を誇りにしています。その養育が根底にあって、高校の最高学年に在籍した6名全員が卒園できたのでした。



私は卒園式で、それぞれの児童を紹介した後で、卒園児に次のように語りかけました。

みなさんは、大変厳しい運命の中に置かれています。

これまでは、愛育園が、親鳥が羽で雛を抱くように、外部からの厳しく、人を騙し、人を陥れる、さまざまな攻撃からみなさんを守ってきました。社会に出ると、それらの攻撃にさらされます。そ

れは、甘い言葉をはじめとしたさまざまな手を使って迫ってきます。昔の間柄を親しいかのように粉飾して使って迫ってきます。卒園児は心を揺さぶり、心の隙に入り込み、だまそうとする厳しい攻撃の中で自立していかなければなりません。私は今、それが分かるからこそ、卒園児全員に、卒園後10年間はこれまでの縁はすべて切って、新しい人間関係を作りなさいと申し上げます。皆さんを食食物にしようとする人がいます。甘い言葉をかけてきます。苦しくても、淋しくても、悲しくても、辛くても、泣きたくても、誘いは一切断って、一人で生きていきなさい。そうすれば、きっと皆さんを支えてくれる人が現れ、皆さんは幸せな新しい人間関係を作ることができるでしょう。そして、幸せな未来を拓くことができるでしょう。皆さんがそう生きることを、愛育園のお地蔵さまは見守ってください。苦しくても、淋しくても、悲しくても、辛くても泣きたくても、お地蔵さまはみなさんを救ってください。



本日おいでの皆様におかれましては、卒園児の未来を温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、一言申し添えます。

昨年に引き続き、満20歳を超えた定時制4年生の児童が、卒園まで当園で生活できたのは、当園監事参議院議員の若林健太先生のおかげです。国は平成23年12月28日付の厚生労働省雇用均等・児童家庭局長名で、児童養護施設に入所した児童が一般家庭の児童と公平なスタートラインに立って社会に自立していけるよう、18歳以降の措置延長を積極的に活用するよう通知しています。しかし、児童福祉法31条で「満20歳に達するまでの間」の規定があり、満20歳を超えた措置は厳しい状況にあります。それを、先生のお力添えにより厚労省、県、児相の理解を得て、今年は3歳から入所した児童が立派に自立して行けることになりました。若林健太先生は昨年に引き続き一人の児童を救っていただきました。心より感謝申し上げます。



4月になりました。卒園児は、それぞれ新しい生活のスタートを切っていることでしょう。愛育

園も新任職員を迎えて、新しいスタートを切りました。4月の陽光の中で愛育園全体が明るく、希望に満ちている感じがします。子どもたちはのびのびと遊んでいます。卒園式で泣いていた子も、とても明るく前向きです。これで分かりました。卒園式はお別れの時ではありましたが、新たな決意を込めたスタートでした。だから卒園児が在園児に言葉を残したのです。『夢は「**努力すれば**」必ずかなう』と。

平成26年度 卒園式

副園長 青谷 幸治

今年度も6名の卒園生を送り出しました。入所時期が長い児童で17年という子もあり、3歳から面倒を見ていたこともあって感慨深いものがありました。1年の行事を締めくくる卒園式が職員、卒園生、在園生と全ての人にとって素晴らしい行事になり、心に残るものになりました。この卒園式は、学校の卒業式にあたりますが、意味合いが全く違います。愛育園の養育から一人で社会自立していくスタートになるのです。卒園する児童も不安や寂しさなど入り混じりながら愛育園を去っていきました。園長先生から「まず10年、すべてのものから縁を切って仕事に打ち込むこと」とおっしゃっていました。自分の人生を切り拓くためにはスタートと習慣が大事です。人の誘惑や自分への甘えなど人をだめにします。4月良いスタートを切ってぜひ幸せになってほしいものです。

この卒園式で最高の形で送り出してもらいたいと卒園生が思える式（ステータス）に定着してきました。来年度の卒園生（高3）はもうスタートを切りました。自分のために本気になれる1年にしてほしいです。来賓の方々、ご出席いただき誠にありがとうございました。

平成26年度 卒園式

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織

今年度もまた卒園の季節がやってきました。今年も6名の卒園生を送り出し、私の担当の2名の児童も先日無事愛育園を巣立って行きました。Sさんは私が愛育園に勤め始めた時から一緒に過ごしてきました。その頃Sさんは中学2年生。ちょうど反抗期の真っただ中でした。職員の人数が一気に減り、私が担当になりましたが、私自身どう関わっていいのかわからず戸惑ったのを今でも覚えています。「職員なんて信じない」その思いが常に彼女から伝わってきて、何度も何度も衝突を繰り返してきました。そんな中でSさんから「先生はいつも忙しいと言って話をちゃんと聞いてくれない。」そう言われた時、私はハッとして自分自身の子どもの関わり方がよくない事に気づかされたこともありました。あれから7年。この7年の間に本当に色々な事がありました。全日の高校に入学したものの、人間関係がうまくいかず、途中で退学。園長先生に背中を押してもらい定時制に入り再スタートをしました。定時制は卒業まで4年。本当に4年間頑張って卒業出来るのか、そんな不安な思いを常に抱えながら、でもなんとか高校は卒業して欲しいという思いもあり、励ましてきました。人間関係でつまづいたことも何度もありました。アルバイトを始めても途中で挫折してすぐに辞めてしまうこともありましたが、でも周りの先生方にも励ましてもらったこと、そして彼女自身も変わりたいという思いがあり、一緒に乗り越えてきました。高校4年生になると、生徒会の仕事も任されるようになったり、アルバイトに対しても一生懸命頑張って取り組めるようになりまし

た。また今までは園の行事をやるといっても一人だけ輪から外れてしまうこともありましたが、少しずつそんな姿も減り、自然と皆の輪に入れるようになりました。このような姿を見ると、成長したな・・・と感じました。またこの1年は社会に出たあと困らないように、細かい事でも全て彼女に伝えてきました。会話にしても「その言い方では相手は嫌な思いをするから、この言い方に変えた方がいいよ。」本当に細かい事ですが、そんな事を繰り返し繰り返し、この一年彼女に伝えてきました。うるさくて嫌だなと思われてもおかしくないのに、それでもいつも「先生ー」と姿を見ると声をかけてくれました。3月7日には高校の卒業式がありました。定時制代表で卒業証書を取りに行く姿を見て、4年間本当によく頑張ったという思いや、堂々と卒業証書を受け取る姿を見て立派になったなという思いが湧き出て涙が出てきました。また先日の卒園式では卒園生の作文発表があり、彼女の口から私への感謝の言葉を聞いた時嬉しい思いと、これでお別れだという寂しい気持ちとで、涙が止まりませんでした。また作文を聞いて、私の事を本当に信頼してくれていたことも伝わり嬉しくなりました。17年愛育園で生活してきましたので、きっとこれからの生活に不安がたくさんあると思います。でも今までたくさんの困難を乗り越えてこと、またこの数年で変わったSさんの姿を見れば大丈夫だと信じています。社会に出て人のお話を素直に聞き頑張してほしいです。

Fさんは3年間担当を持ち一緒に時間を過ごしてきました。3年間という短い時間でしたが、Fさんとの関わりを振り返ってみると、とても濃密だったなと思います。いつもお互いの意見がぶつかり合い、衝突がとて多かったと思います。どうやったら素直に私の話を聞き入れてくれるのか……。常にそんな事を考えながら彼女と関わってきました。そんな時ある出来事がきっかけで彼女と私の関わりは少しずつ変化していきました。この出来事のおかげで私は本気で彼女にぶつかることができ、私の思いを真剣に聞いてくれ、彼女自身変わらなきゃいけないと思ってくれたのです。その結果高校2年生からアルバイトも始めることができ、成績も安定してきました。高校3年生になると進路を真剣に考え始め、9月には就職先を決めることができました。そこからは卒園後の生活に困らないよう一生懸命アルバイトをしてお金を貯め始め、運転免許も自分のアルバイト代から出すこともできました。これは彼女の努力した結果です。いろんな出来事があったけど、一つ一つ乗り越えてよく頑張ってきたと思います。社会に出て感謝の心を忘れず、頑張してほしいと思います。また今回私は二人の卒園式の作文を聞き、子どもに本気でぶつかれば子どももそれに答えてくれるということを改めて感じました。一緒に泣いたり、怒ったり、笑ったり……。その一つ一つがしっかり子どもに伝わっていることがわかり自分の関わりは間違っていなかったと思うことができました。ま



たこの二人のおかげで私自身も成長することができ、感謝しています。こうやって無事卒園生を送り出せたのも、私一人の力だけでなく、たくさんの先生たちのおかげでもあります。本当にありがとうございました。

卒園児お別れの言葉

Sさん

本日は私たち卒園生の為にこのような会を開いて頂きありがとうございます。17年前当時3歳だった私は父親に手を引かれこの円福寺愛育園にやってきました。振り返ってみれば17年は長いようでとても短く感じ、沢山の人に支えられて今日卒園を迎えることを嬉しいと思う反面、淋しい気持ちもあります。卒園に近づくにつれて当たり前と思っていたこともどれだけ幸せか考える様にもなったし一人暮らしをすれば話ができた仲間や園の先生とも話せないし「いってらっしゃい」や「おかえり」とも温かいご飯が用意されて帰りを待ってくれる人もいない事が何よりも淋しいです。



淋しいと感じる事は他にも沢山あるけどそう感じる反面、卒園の準備が進むにつれ新しい生活への期待で心は前向きになれています。愛育園での生活は楽しただけでなく、もちろん辛かった事もあったし愛育園が大嫌いだと園を飛び出した事もあった。高校を一度辞めて定時制の高校に進学し3月7日には無事卒業でき沢山の事で悩み・考えて、成長できた自分があるのは愛育園にいたからこそだと思っています。きっと愛育園じゃない他の施設にいたら今の自分になれていないと思います。そんな自分をすぐ近くで時には厳しくもいつも優しく支えてくれたのは担当の石崎先生。

先生とは7年間の付き合いだよ。大人を信じられなかった中学生の時の自分と今では懐かしと思うけどぶつかってばっかだったよね。高校を変えた時も色々意見がぶつかってはいたけどいつの間にか先生が大きな存在に変わっていったし、いつも「先生、先生」ってしつこくしてごめんね。同じ担当だった子とはどっちが石崎先生に担当として愛されているかなんて困らせたこともあったよね。就職も自分より真剣に考えてくれて第一志望の会社に残念ながら合格できなかった時も「良く頑張った」と笑顔で帰りを迎えてくれた事。次こそはって前向きになれたし色々悩んだ結果就職先の会社を受けて無事内定をもらった時もすごく喜んでくれたこと、本当に石崎先生が担当で良かった。4月から住むアパート契約から生活していくために大事なことを教えてくれたり、本当に卒園しなくちゃのかなんて卒園が近づく度に先生に言ってたし涙をこらえるので精一杯だったから思い出なんてあんまり話せなかったのが心残りだけど、思い出なんて話すのは泣けてきちゃうし、石崎先生なら泣いちゃうんじゃないかなんて思ってるからあえて感謝の言葉だけにするね。

それと、卒園したら辛いことばっかで辞めたくもなるだろうし、今までみたいにすぐには甘えることもできないけど先生に教えてもらった事を大切にして社会に出ても頑張ってるよって言えるように頑張るね。先生も体に気を付けて頑張ってね。7年間笑ったり怒ったり泣いたり一緒にできた事幸せでした。今まで育ててくれて本当にありがとうございます。大好き。次に園長先生。一度高校を辞めた私を心配して定時制に通わせてくれてありがとうございます。これからは一社会人として社会へ出て円福寺愛育園で教えてもらった事を大切に頑張りたいと思います。お世話になりました。そして、青谷先生。入所した時から面倒見てもらっていたから本当の父親みたいに叱る時は叱る、褒める時はたくさん褒めてくれた先生。小さい事で「園嫌い」「園出てきたい」と言って何度も先生と話したよね。先生は昔一回園を辞めてまた戻ってきた時は園も子どもも職員もぐちゃぐちゃだった。先生は「夢」について園の皆に話していたっけ。でも当時の私は「夢」なんてなかった。というより夢を話せる環境じゃなかった。でも少しずつ夢ができてきて夢ができたって言った時はすごく嬉しそうに「夢を叶える為には今できることを頑張ろう」と言ってくれたのを今でも覚えているよ。でも、先が見えないし夢に近づいているかなんて分からなくなって投げ出したくなった日もあったけど先生が言ってくれた一言で今日まで頑張れたよ。就職・今後の生活もそうだけど毎日私の知らない所で動いてくれて応援してくれてからこそ、今日こうして胸を張って卒園できます。何を伝えたいか分からなくなってきたけど一つ言いたい事は育ててくれてありがとうございます。体に気を付けて頑張ってね。お勝手の先生。いつもキャベツ嫌いだから残してごめんね。それといつもおいしいご飯をありがとうございます。先生たちの温かいご飯もう食べれないかと思うと淋しいです。特に中澤先生。会うと韓国アイドルの話かこれが食べたいとしか話せなかったよね。卒園が近づくのと同時にしょっちゅう先生、先生って仕事のじゃましに行ってごめんね。怒られたこともあったけど、相談したら相談にもものってくれていっぱいお話できて嬉しかったよ。ありがとうございます。まごころの先生。口が悪い時でもなんだかんだで陰ながら支えてくれてありがとうございます。これからも体に気を付けて頑張ってね。大好き。最後に園の皆。皆に伝えたい事は夢は必ず叶うものだから、夢を叶える為に今を頑張りたいし、園や自分の周りの人、先生を大切にこれからも頑張ってください。応援しています。17年間ありがとうございます。

卒園児お別れの言葉 愛育園での思い出

私は愛育園で中学校3年生から過ごしてきました。その中で感じてきたことを話そうと思います。今年の愛育園祭で行った書道パフォーマンスのテーマは「成長」でした。この「成長」は私にとっても大きな課題でした。園に来た頃の私は、先生の話や話を聞かず注意されても聞いているようで全然聞いていませんでした。それどころか注意されると、自分が悪くても人のせいにして、「なんでそんなことを言われなきゃいけないの」と思っていました。そんな中、高校に入学するとともに石崎先生が担当になりました。先生は入所した当初は担当ではなく、まごころの先生というだけでしたが、さまざまなことに対して話を聞いてもらっていました。先生が担当になってくれてよかったと

思いました。その時の私は石崎先生に怒られたことはなく、先生が優しい先生で怒らないだろうと思っていました。でもいざ担当になると、たくさんのご事で怒られ何度も話をしました。それでも先生は、見捨てずに話をしてくれました。でも、私は素直に間違いを認められない上に、いつも最後にはなんとかなるだろうという考えを持っていて真剣に受け止めていなかったような気がします。そんな私に対して、高校1年生の時に初めて泣きながら話をしてくれた先生。それを見て、先生が泣いたことに対しての動揺と怒られていることに対しての申し訳ないと思う反面、先生ってすごいなと思い、初めて尊敬しました。自分の損得を考えて行動していた私はその時のことが衝撃的で忘れられません。それと共に私の側にはこうやっていつも真剣に考えてくれる人がいるんだと実感しました。でも、そう思っているにもかかわらず、その後も何度も同じことで注意されました。たぶん、先生の担当の中で一番怒られて迷惑をかけていたんじゃないかと思います。それでも歳を重ねるごとに怒られなくなっていきました。卒園式の1か月前にしてもその自覚がない私は先生に「このままだったら卒園の準備しないから、自分で好きにやって」と言われ、一週間話さないことがありました。でも自分の何が悪くて言われたのか分かっていない私は、イライラしてきてこうなったら絶対に謝らないと今まで以上に頑固になっていました。そんな時にホームの先生たちから石崎先生がどういう思いでそう言ったのかということをお聞きされて、ようやく自分が悪かったということをお認めしました。でも一週間話さなかったという気まずさから謝ることも話しかけることもできない私は、それでも謝りたいと思い青谷先生に機会を作ってもらい話をすることができました。先生には、私が知っている以上にたくさんのごことをしてもらってたくさん迷惑をかけたと思います。でも、先生にあの時見捨てられていたら、今この場に私はいませんでした。先生のおかげで今年一年は、園の生活、アルバイト、学校と様々なことで成長できたと思います。先日、一年半ほど働いたアルバイトが終了しました。その時、アルバイト先の皆さんにお疲れ様、これからも頑張ってお言葉をお聞きしました。この言葉をお聞きした時、とてもうれしい気持ちになりました。こんなうれしい言葉をお聞きしたのは、最後までやりぬくことの大切さを教えてくれた先生のおかげだと思います。最後の最後まで自分の意見を押し通して先生の話をお聞きできなくてごめんなさい。先生から見て私は変わりましたか？もし変わっていたならそれは先生がいてくれたからです。今は「ありがとう」という言葉じゃ伝えることができない程感謝の気持ちで一杯です。先生、最後まで担当でいてくれてありがとう。愛育園に居た期間は短かったけど、毎日が楽しくて本当にあつという間で、今日卒園と言う実感がありません。まだ、愛育園での生活が続いていくんじゃないかと思ってしまう。でも、それも今日で終わりこれからは、今までやってもらっていたことを全部自分の力でやっつけていかなければいけなくなります。辛くなった時、逃げだしたくなかった時は園での生活や言われた言葉を励みに頑張りたいと思います。愛育園に来て生活することができて良かったです。園長先生をはじめ先生方に支えられてここまで来れました。本当にありがとうございました。

卒園児童を送り出して

あおぞらホーム長 富沢正樹

本年度は6名の卒園生がおりました。私の担当児童も2名が園を卒園していききました。稲荷山養護学校に通うH君とT君でした。

H君は、高校入学した時から3年間、担当してきた子でした。気持ちの優しい子で、周り人が喜ぶ顔を見たくて、気を使っておどけて見たり、面倒臭い事でも率先して引き受けてくれたりする子でした。反面、自分の思いをなかなかさげ出せず、溜め込んでしまう性格で、「困っていることはない？」「欲しいものはない？」と何かしら声をかけても、笑顔で「大丈夫、何もないよ」と返す子でした。人に気持ちを伝える事が苦手で、とってもシャイな子でしたが、会話を重ねていく中で、しっかりと将来の夢を持っていることがわかりました。彼は、高校1年生の頃から、「しっかりと自分で働いて、お金を稼いで、親に迷惑かけずに生活できる様になりたい。」と話していて、努力を積み重ねてきました。そして、見事に上田にある日信工業に就職を決めました。本当によく頑張りました。

T君は、高校2年生から2年間、担当した子でした。T君とは2年間で何度も衝突してきました。特に、進路もなかなか決まらなかったり、園を卒園していかなければならないという寂しさから不安定になっていた今年は、声を荒げるほど落ち着かない日もありました。そんなT君も、卒園式には園の職員に対する感謝の言葉を伝えてくれました。

式当日は、卒園生一人一人が園で過ごした日々の思い出や皆に対する感謝の言葉を堂々と述べていました。とても立派でした。努力を積み重ね、苦勞を乗り越えてきた事が事実だからこそ、卒園生達が語る言葉がその場だけのものでない事がわかります。

退場間際、最後に「仰げば尊し」を歌いましたが、卒園生も、在園生も涙を流しながら別れを惜しましました。私自身も、これまでの卒園生の数々の努力が思いだされ涙が止まらなくなりました。

卒園式は、それまでの積み重ねや一年間の充実が式に表れると思いましたが、「終わりよければ」ではなく、一年間、皆が頑張った本当に素晴らしい卒園式でした。

来年の卒園式も今年度に負けなくらい良い式にしたいと思えます。その為の準備はもう始まっています。一年間が充実したものになるように、一年通して作り上げる式を目指していきたいと思えます。

社会に出ていく卒園生が長く長く活躍してもらえる事を願っております。H君、T君、頑張ってください！！

卒園生を送り出して

保育士 酒井悠紀

穏やかな季節になりつつある3月22日、円福寺愛育園卒園式が厳粛かつ盛大に行われ、6名の児童が巣立っていききました。本年度は入社以降初めて卒園生を担当させていただきました。中学校3年から入所してきたJ君と、高校2年から入所してきたY君です。この2名の卒園生とは、喜び、

苦しみ、楽しみ、苦労を味わって来ました。愛育園への入所以前には他施設にて長期の生活を送って来ていました。そんな中、中学や高校を迎える時期に当園に入所してきました。

はじめはなかなか関係が作れずに、自分の考えや言い分を一方向的にぶつけていました。反発することも無く言われたとおりにやっている両名に、いつしかこの子達なら大丈夫、問題なく過ごしてくれると安心してたのを覚えています。しかし、そんな安易な考えで過ごしてきた私は、次々と大きな失敗をしていきました。そんな私を表すよう



に2人も、いろいろな問題行動を起こし、その対処に次々と追われていき、表面的に問題の解決を

していくばかりでした。子どもの心に寄り添いながら、心を養育していく、根本を忘れていたことを今では後悔をしています。

進路を決定する際には、進学・就職と全く別の道を選択したJ君とYくん。進路決定は不安もありましたが、様々な先生方のご協力いただき、なんとかそれぞれの進路を掴み取ることができました。二人とも一人暮らしをすることも決まりました。進路が決定するまでは2人とも本当に不安で、行動があたふたしていました。しかし決定



した後からは気持ちも晴れアルバイトや教習、自立の準備がスタートしていきました。この頃から別れをというものを感じ始め、寂しさを抱えながら接していました。毎日のようにスケジュールの確認をしあい、生活に緩みがないかチェックし、自立に向け買い物を行い、アパートや卒園後のバイト探し、やることは沢山ありましたが、その一つ一つが最後だと思い、一生懸命やってきました。卒園まで色々と迷惑



をかけられ、かけながらの毎日が本当に充実していました。今まで卒園生を持ったことがなかったので、卒園生の担当の気持ち思いを考える事はありませんでしたが、今回送り出す事を経験し、色々な事を考え、実践し、苦労を重ねたことで、卒園生と共に少しは成長することが出来たと思います。この経験をゼロにせず、これからも持続させて行きたいと思います。

そして、この2人が立派な男になることを心より、祈っています。



お涅槃会

園長 藤本光世

3月12日に、調理で作っていただいたやしょうまをお供えしてお涅槃会の法要をしました。私が、大涅槃図の前でお釈迦さまのお涅槃の様子を絵解きをしますと、児童全員が身を乗り出して、良く聴いてくれました。毎年恒例の仏教行事が、子どもたち全員の参加で落ち着いてできることを嬉しく思っています。

宮本賢一さまからのお手紙

おもしろい、圓福3月号ありがとうございます。本校に置かしても来週よりいよいよ新年度が始まります。おもしろいの職員の成長の記事が印象に残りました。教育が子どもの意識や心を変える仕事という一文に襟を正される思いがいたします。今の世の風潮があまりにも自分本位になり教育は難しい時代のような実践ができるよう日々目の前の子ども、その背後に居ります保護者と対峙していきたいと思っております。ありがとうございます。



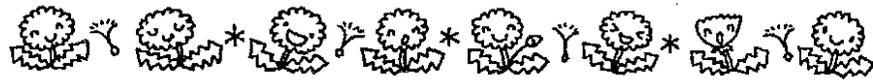


園内保育だより

平成27年度の園内保育は、年長児2名、年中児1名、年少児2名、未満児1名の計6名でスタートしました。1つずつおにいさん、おねえさんの学年に進級し、はりきる姿を見せてくれています。

今年度も子どもたちが楽しめる行事や活動を取り入れながら、一人一人が心身ともに成長できるよう、援助していきたいと思っております。

どうぞ、よろしく願います。



4月のわらい

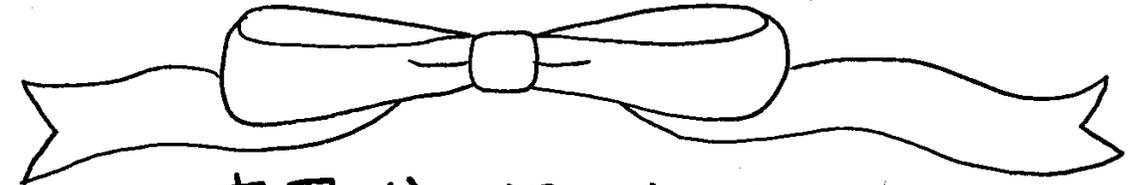
- ・進級したことに喜びをもち、新学年にふさわしい行動をとろうと努力する。
- ・戸外で身体を動かして、伸び伸びと遊ぶ。

4月の行事

7日(火) 1学期始業式
下旬 春の遠足

4月の歌

- ♪ チューリップ
- ♪ ちょうちょ
- ♪ 春がきた
- ♪ おはながわらった
- ♪ ぶんぶんぶん



卒園式を行いました

平成26年度 園内保育卒園式 式次第

- ・卒園児 入場
- ・開式のことば
- ・礼拝
- ・園長先生のお話
- ・来賓紹介
- ・卒園証書授与
- ・歌「思い出のアルバム」
- ・卒園記念品贈呈
- ・呼びかけのことば
- ・歌「ありがとう ころもこめて」(卒園児)
- ・閉式のことば
- ・花束贈呈
- ・卒園児退場



3月27日(金)、2名の年長児が園内保育を卒園しました。昨年度の卒園児の姿に憧れを抱き、次は自分たちの番だ!と期待を膨らませたあの日から早一年... 卒園式に向けて、証書授与や呼びかけ、歌などの練習に励みました。練習を重ねる度に自信をつけ、式の練習だけでなく、普段の生活でも年下の子どもたちの手本となりました。式当日は素敵なお洋服を着て、緊張した様子でしたが卒園児として立派な姿を見せてくれました。また、卒園記念品として、卒園児からは優しいパステルカラーで塗られたおままごとの食器入れ、在園児からは時間割表や小物を入れられるおしゃれな壁かけが贈られました。式後の会食では、子どもたち大喜びのスペシャルランチをいただきながら、思い出話をし、卒園式の余韻にひたりました。

この日を迎えることができたのも、園長先生はじめ先生方、おうちの方や地域の皆様、温かく見守って下さった全ての方々のおかげです。心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

